

# 図書館だより SAKUらいぶ

作新学院大学

令和4年2月号

作新学院大学女子短期大学部 図書館



## ☆内 容☆

- ・本を読むということ
- ・「安心安全な図書館を  
目めざして」
- ・あなたのページ
- ・「教育実習報告会」を  
図書館から配信しました
- ・開館カレンダー

## 本を読むということ

作新学院大学女子短期大学部 幼児教育科 講師 横井夏子

みなさんにとって、本を読むという行為は、どのようなものでしょうか？

とにかく本が好き、趣味は読書だという方もいれば、レポートのために仕方なく目を通すという方もいるでしょう。

本のなかには、いつでも新しい世界が広がっています。読者は現実を離れ、行きたいところに行けて、なりたい自分になれます。そういうところが、本好きの好奇心をくすぐるのかもしれない。

フィクションであれば、作者の妄想の世界を覗くことができますし、ノンフィクションであっても、著者の考えていることや言いたいことにふれることができます。つまり、本を読むということは、現実の時間や空間を飛び越えて、他者の頭のなかと出会うことだといえます。

文章の読解という文脈に限定してみると、国語の授業で、本の読み方を練習しているといえるかもしれません。たくさん読んで（練習して）いるうちに、著者の思考を理解できるようになれたり、著者の頭を使って考えられるようになったりする可能性はあります。

でも、本の世界とどう出会うか、どうつき合うかは、読み手に委ねられています。読みっぱなしでもいいし、仲間と共有してもいい。

図書館には、本の数だけ、自由な世界が広がっています。慌ただしい現実を離れて、本の世界を、旅してみませんか？

# 「安心安全な図書館をめざして」 ～ 図書館で防災訓練を行いました ～

最近、地震や火山噴火等の災害の報道を目にします。多くの学生さんが来館する本図書館においても「緊急時危機管理体制」の確認が求められています。今回、災害等の危機を想定しながら「図書館防災訓練」を実施しました。訓練は「災害時、学生の安全確保を最優先して速やかに行動し被害を最小限に抑えること」を目的として「地震」「不審者」対応について「その時職員がどう行動すべきか？」を考えると共に、消火設備や避難経路の確認を行いました。主な訓練の様子をお知らせします。

## ○ 避難経路（出口）確保

本図書館の非常口は4か所あります。そのうちの第一非常口となるのが玄関（右写真）ですが、ここを出口確保するためには



①出入口バー②自動ドア③玄関ドアの3か所の開放が必要です。危機発生時に即座にこの対応ができるよう、操作確認とその練習を行いました。他の非常口は、2Fと1Fの南西角、1Fゼミ室2の横にあります。



## ○ 緊急アナウンス方法の確認

図書館内には放送機器があります。普段はあまり利用していませんが、緊急時にはこの機器を使用して「身体保護と安全確保の呼びかけ」「避難等に関する指示」をします。「地震です。書棚から離れ机の下にもぐってください。」とか「地震が収まりました。誘導しますので・・・から出てサッカー場に避難してください。」等その時の状況に応じた呼びかけをする必要があります。放送機器の使い方も含めて確認をしました。

## ○ 避難経路の確認

4か所の非常口の開け方と共に、安全に避難誘導するために実際にそれぞれの避難経路を歩いてみました。経路上には階段や段差もあり、「安全に移動できるようにするための留意点」を呼び掛けながら誘導する必要性も実感しました。更に経路の安全性を高めるために、要改善点を明らかにして施設改善要望を提案することにもしました。



## ○ 館内の消防設備や避難誘導方法の確認

館内には十数か所に消火栓や消火器が備え付けられています。これら一つの位置と使用方法と共に、防火シャッター位置やシャッター作動時の避難誘導経路の確認も行いました。



この他にも、不審者対応の実際・警察や消防への緊急連絡・AEDの所在確認等を学びました。実際にAEDを取ってくるまでの時間を測定したところ、約2分かかることも分かり、緊急時の初期対応判断の重要性を肌で感じる事ができました。緊急事態が起こらないことに越したことはありませんが、そんな時に慌てず的確な避難誘導ができるよう今後も継続した訓練を重ねていく必要があると感じました。

# あなたのページ

利用者からの投稿です

「あなたにとって図書館とは」と問われると「教員生活の原点」と答えるだろう

人間文化学部（内地留学生） 内田 百合香

私が教員を目指していた頃は、倍率が数十倍。臨時採用は当たり前でした。私も当時、非常勤講師として勤務していました。採用試験の勉強も進まなかったのですが、臨採仲間が「図書館で勉強をしよう」と声をかけてくれたため、図書館に集まって勉強をすることにしました。仲間から遅れを取らないためにも、図書館に通い必死に勉強をしました。静かな環境で勉強や読書をしている人たち。その中で「私一人ではない。みんな頑張っている。」そんな気持ちから、挫けそうになっても努力することができました。その努力のおかげで、その年の採用試験に合格。今があります。

その後も、授業に使う資料探しに困った時、子供に読み聞かせをしたい時・・・私の中では、図書館が重要な存在であることは間違いありません。そして今、内地留学生として大学に通って図書館を利用させていただいています。初めてこの図書館に入った時、本の多さにわくわくしました。たくさんの本や資料の中で、再び大学生活を送り、自分の学びたいことを勉強することができることにとても幸せを感じています。

私にとって図書館は自分の夢をかなえられた素敵な場所です。学生の皆さんも夢を叶えるために、ぜひ図書館を活用し素敵な学生生活を送ってほしいと思います。

## 私にとっての図書館とは

人間文化学部（内地留学生） 水谷 真紀

私にとって、図書館はオアシスのようなものです。

図書館に行くと、図書館の音、空気、図書館にいる方々、すべてが調和して私の心と体に潤いを与えてくれるのです。図書館に行けば、誰かがどこかで何かをしている、会話がなくても誰かの気配が感じられ、安心して勉強できる場所でした。

また、図書館で本を探すために、自分の探している本の場所に行くと、その付近にある自分の知らない本との出会いがあり、新しい発見もできました。作新学院大学の図書館にはたくさんの蔵書がありますので、その中から自分だけの宝物を見つけたような感覚を味わうことができました。

私にとって図書館とは、学習をしたり知識を得たりするための場所だけでなく、忙しく過ぎる毎日の中でホッとできる場所でした。

内地留学中の半分以上の時間を図書館で過ごしたと言っても過言ではないくらい、図書館にはお世話になりました。

半年間でしたが、快適な時間をありがとうございました。

# 「教育実習報告会」を図書館から配信しました

1月27日（木）に図書館から「教育実習報告会」を配信しました。本来ならば教室を使って対面で実施する予定だった報告会ですが、コロナ感染防止対策の観点から zoom を活用しての遠隔発表会として行われることになったわけです。



報告会では、写真のようにゼミ室2会場からの発表者と自宅等からの発表者がいました。皆さん、それぞれの教育実習経験についてプレゼン資料を基にしてとても上手に発表していました。発表は、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校それぞれの校種ごとに行われました。zoom 配信のサポートをしながら「実習前の準備」「実習中の1日の流れ」「研究授業の様子」「これから教育実習に行く下級生へのメッセージ」等の発表内容を聞くことができました。いずれの発表からも、教育実習期間を無事に完走できた達成感と共に、実習で実感した思いを今後の自身の仕事の中でも生か

していこうという新たな意欲を感じました。発表会の内容は、同学年の仲間たちの共感を得たでしょうし、これから教育実習を経験する下級生にとっては、またとない「いい学修の機会」になったと思います。こんなに素晴らしい報告会を図書館でサポートできること、職員一同とても嬉しく思っています。



## 開館カレンダー

2022年2月・3月

2月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

- 午前9:00～午後4:00
- 午前9:00～午後5:00
- 休館日

3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

引き続き、一般の方のご利用をお断りしています。  
ご理解の上、ご了承ください。

新型コロナウイルス感染状況により、開館予定が変更になる場合があります。  
最新の状況については、図書館HPをご確認ください。

~~~~~ 発行・編集 ~~~~~  
 作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 図書館  
 Tel 028-670-3651・3652  
 Fax 028-670-3619  
 E-mail tosyos@sakushin-u.ac.jp  
 URL <http://www.sakushin-u.ac.jp/library/>

